製本のススメ　Vol. 75

コブシやハナミズキが咲き春爛漫ですが、未だに地面は揺れて、不安な日々が続きます。その中で小さな歩みながらも復興という動きが目立ち始めています。この国の経済は政府でなく庶民が支えているのだと実感しますね。

今回は**紙の選び方**の話し

事務的な冊子であれば紙選びは迷いませんが、上製本や特別な冊子では選ぶ用紙しだいで、出来栄えの良否が変わります。また加工手段によっては、難しい場合も起きてきますので、紙の知識は必要不可欠ですね。

写真集（アルバムなど）

印画紙や写真用紙は耐水性が弱く、インクジェットでは滲みがでますので、上製本には不向きです。塗光紙などに印刷するか、加工方法を検討して下さい。余談ですが小部数の上製等で口絵だけだからと、出力して持ち込まれる事がありますが、これも上製には不向きです。

見返し紙

並製本では、さほど問題はありませんが上製本や手帳製本(ﾋﾞﾆｰﾙ表紙)では、見返し用紙は重要な部品ですので、十分な強度が不可欠です。また湿気に弱い紙質やしんだん紙のように伸び易い用紙も不向きです。

糸綴り

特に紙質の指定はありませんが、糸の結び目が折ごとにできる為、この結び目の厚みを折丁の厚みの中で吸収せねばなりません。そのため紙の厚みによっては16頁折（八つ折）以上でないと綴り以降の加工ができない場合があります。頁枚数があるからと、薄い用紙の選択が良いとは言えないのです。

加工方法によっては

ダイカットのようなビク抜き加工では同じ上質であっても「しらおい・再生紙」は不向きです。NPI上質やキンマリ・OKプリンスがよいでしょう。
そのほかにも、加工方法や加工箇所によって適材な紙がありますので、印刷したけれど加工できないと言うことの無いようにいたしましょう。

Teabreak

八十八夜とは、立春から数えて88日(5月2日頃)です。夏も近づくと唄にあるように畑作物の種蒔きなど、農家には重要な時期でもあり、また霜の心配もなくなるなど、八十八は末広がりの八が重なる縁起の良い日とされています。
瀬戸内では「魚島時ｳｵｼﾞﾏﾄﾞｷ」とも言われ、豊漁期に入る目安とされています。

by（株）井関製本